

## 会議録

- 1 会議名：第64回北九州市環境審議会
- 2 会議種別：付属機関
- 3 開催日時：令和5年1月19日(木) 15時00分～16時35分
- 4 開催場所：ホテルクラウンパレス小倉 3階 ダイヤモンドホール  
(北九州市小倉北区馬借1-2-1)
- 5 出席者(敬称略)：  
会 長 浅野 直人  
会長代理 中島 隆治、松永 裕己  
委 員 藍川 昌秀、池田 幹友、井上 しんご、井上 智帆、江口 恵子、大田 純子、重國 香、  
田中 綾子、中牟田 リラ、沼田 文子、浜口 恒博、浜野 和子、古野 英樹、山下 洋介、  
山根 小雪、吉田 幸正  
事務局 柴田環境局長、中島総務政策部長、正平グリーン成長推進部長、有馬環境国際部長、  
作花環境監視部長、檜木野循環社会推進部長、杉本総務課長、  
工藤グリーン成長推進課長、柿木再生可能エネルギー導入推進課長、  
村上環境イノベーション支援課長、有田環境国際戦略課長、武藤国際連携推進担当課長、  
渡辺環境監視課長、野田環境保全担当課長、川崎産業廃棄物対策課長、  
原田循環社会推進課長、岩崎適正処理・減量化担当課長、中村業務課長、野口施設課長

## 6 議 題

### (1) 審議事項

- ① 会長選出
- ② 会長代理選出
- ③ 北九州市公害防止条例等の一部改正について

### (2) 報告事項

- ① 北九州市地球温暖化対策実行計画の進捗評価報告(令和3年度実績)について
- ② 第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画の進捗報告(令和3年度実績)について
- ③ 第2次北九州市生物多様性戦略の進捗評価報告(令和3年度実績)について
- ④ 北九州市環境基本計画の進捗評価報告(令和3年度実績)について
- ⑤ プラスチック資源一括回収事業及びペットボトルの水平リサイクルの推進について

## 7 議事概要

開会にあたり、環境審議会の概要説明、令和4年8月1日付で選任された第15期北九州市環境審議会委員及び環境局幹部職員の紹介を行い、環境局長から挨拶があった。

続いて、会長1名、会長代理2名の選出が行われた。

その後、北九州市公害防止条例等の一部改正に係るパブリックコメントの実施結果と答申案につい

て事務局から説明があり、審議を行った結果、答申案の軽微な修正については会長一任としたうえで、今後市長に対して答申することが了承された。

また、その他5件の報告があり、質疑応答がなされた。

## 8 議事録（要旨）

### ■審議事項

#### 【事務局】

これから先の議事につきましては、会長にお願いいたします。

#### 【会長】

はい。それでは議事に入りたいと思います。本日は審議事項1件、報告事項5件ということでございます。

審議事項ですが、前々回の審議会で諮問を受けました、北九州市公害防止条例等の一部改正について、これをまず審議したいと思います。

これまで審議会で議論をし、かつ、パブリックコメントなどを行いまして、大体の整理ができたということでございますので、本日はこの件について、皆様方にお諮りをし、よろしければこれで答申ということにさせていただきたいと思っております。

それではまず、この件に関して事務局から説明をいただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。

#### 【事務局】

「北九州市公害防止条例等の一部改正について」説明

#### 【会長】

ただいまパブコメの結果についてのご報告と、それを受けての答申案の内容についてご説明をいただきました。

ただいまのご説明につきまして、何かご質問ある方はどうぞ挙手をよろしくをお願いいたします。

#### 【委員】

ご検討いただければと思ったのは、12ページの4-2-4の最後の2行のところで、「規制で対応可能であることから削除して差し支えない」という書き方をしていると思うんですね。これに対して私、非常に同意します。

その一方で4-2-3の最後の2行のところで、「との一本化で対応可能であり」と、あえて表現が変わっていると思うんですが、「一本化する」というよりは、「大気汚染防止法により対応可能であり」の方が下との統一も取れると思います。もし差し支えなければ、ご検討いただければと思いました。

それと同じことが13ページの最後の1行のところに「一本化」とあるんですが、「大気汚染防止法で対応する」ということだと思うので、これもご検討ください。

13ページの下から2番目のパラグラフの最後のところに、「総排出量の1%未満であることが判明した」とあるんですが、「であった」ぐらいの表現で十分ではないかなと。大上段に構え過ぎかなという気がちょっとしまして、それもあわせてご検討いただければと思います。

以上です。ありがとうございます。

【会長】

今の点については、事務局いかがですか。

【事務局】

おっしゃるとおりだと思いますので、修正をさせていただきます。ありがとうございます。

【会長】

今のご発言についてはそのようにさせていただきます。

はい、他にございませんでしょうか。

【委員】

15 ページの最後から 2 行目の「工場事業場」なんですけど、それぞれ違うものを指していると思うので、読点を入れるか、中ポツを入れるかした方がいいかなと思いました。

以上です。

【会長】

真ん中に丸ポツを入れるということですね、「工場・事業場」ということで。この表現でよければそれにしてください。

他に、ご質問でも結構ですが、いかがでございましょうか。よろしゅうございましょうか。

それでは特にご発言、ご質問はないようにございますので、委員からご指摘のありました箇所を修正した上で、答申ということにさせていただきたいと思いますが、よろしゅうございますか。

最終の文章については、私にご一任いただくことにしたいと思います。よろしいでしょうか。

【委員一同】

はい。

【会長】

ありがとうございます。それではご一任いただきましたので、一部修正をした上で、本日の内容を答申ということにさせていただきたいと思います。

この答申を受けた後の扱いについて、事務局からスケジュールについてご説明がございます。

【事務局】

本日はご意見いただきましてどうもありがとうございました。

事務局といたしましては、先ほどの修正を踏まえまして、答申案の修正作業を行い、会長にご確認いただいた後、市長に答申をいただくことを予定しております。

また、その後、市の方でパブリックコメントの実施結果、答申書の公表を行いまして、条例議案を市議会に上程していくという流れになっております。

以上でございます。

## ■報告事項

### 【会長】

はい。それでは報告事項に移りたいと思います。

報告事項は、①から④までをまず一括してご説明いただいて、意見交換したいと思いますので、それぞれについて事務局からご報告をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

### 【事務局】

①「北九州市地球温暖化対策実行計画の進捗評価報告（令和3年度実績）について」説明

### 【事務局】

②「第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画の進捗評価報告（令和3年度実績）について」説明

### 【事務局】

③「第2次北九州市生物多様性戦略の進捗評価報告（令和3年度実績）について」説明

### 【事務局】

④「北九州市環境基本計画の進捗評価報告（令和3年度実績）について」説明

### 【会長】

それでは北九州市の環境に関する基本計画と分野別計画3つについて、それぞれの進捗状況のご説明をいただきました。どの計画についても構いませんので、ご質問なりご意見なりございましたら、お出しただければと思います。

### 【委員】

温暖化対策実行計画に関して2点質問をさせていただきます。

まず1点目、参考資料2に今の進捗状況の表がございました。何が順調で、何がなかなか難しいという状況なのか、ぜひ教えてください。

それと14ページに地元企業との連携ということで、様々な事例が載っていました。北九州市はこういう企業と何を連携されるのか、ぜひ教えてください。

以上2点です。

### 【会長】

はい。事務局、お答えいただけますか。

### 【事務局】

まず1点目の参考資料2のグリーン成長戦略の取組の進捗につきまして、今のところ概ね順調に推進されているところではありますが、目標としまして、再エネの導入量につきまして、2030年度までに現在の約3倍の導入量を目指しておりますので、そういった中で、例えば特定卸供給やオンサイトPVの再エネ供給量などにつきましては、今後とも推進をしていく必要があるかと思っております。

また、水素につきまして、最近ですと経済産業省も水素の支援制度を検討しておりますので、そういった国の政策動向もキャッチアップしていきながら、施策を推進していく必要があると考えておりま

す。

資料本体の 14 スライド目の企業連携の話ですけれども、大きく 2 つありまして、九州全域として再エネが早期に多く導入された結果、余剰の再エネが発生し、活用できていないということが生じておりますので、そのような再エネをいかに有効活用していくか、そのためにエネルギーマネジメントシステムを構築したり、または蓄電池を活用して再エネを貯めて、足りない時に使ったりとか、そういったシステムの構築を企業と連携していくことを一つ主眼にしております。

さらに、蓄電池を活用するにあたって、リユース・リサイクルの構築も含めた、資源循環型での活用ができるように取り組んでいくというところを、企業と連携して実施しているところです。

以上になります。

【会長】

よろしいでしょうか。

【委員】

はい。ありがとうございます。

【会長】

はい。どうぞ。

【委員】

私の質問は 2 点ありまして、2 つとも報告①の地球温暖化対策についてでございます。

スライド 8 になります。昨年度このグリーン成長を作られて、いよいよこういったガバナンス体制が整ってきたことと思います。本当に力強い動きだなと思っているところであります。

スライド 8 にあるこの仕組みが本当に力強く機能しているかどうかが、この成長を促すかどうかだと思っております。ステークホルダーと連携していくと書いてありますが、どのような連携体制で、どのような企業を選択するのか、また、頻度など、どのような感じで進めていかれるのかイメージをお聞かせください。

もう 1 点ありまして、交通に関して、スライド 5 に北九州市環境首都総合交通戦略について書かれております。別添の資料のほとんどのデータが右肩上がりで良くなっていると思うんですが、交通に関してだけ利用者が減っているというデータがあり、気になったので、今後の交通戦略の一番メインとなるポイントだけ教えてください。

以上です。

【会長】

はい。事務局お答えください。

【事務局】

最初にご質問いただいた庁内推進本部につきまして、推進本部自体は、庁内の会議になっているんですけれども、脱炭素につきましては、環境局だけではなく、建築都市局や産業経済局など各局との横連携が必要だということがございまして、各 PT につきましては、各部署の担当者も参画して、庁内・部署間の連携を強めるといった形で構成をしております。

それぞれのプロジェクトチームの中で具体的な施策を検討していくことになりまして、それを推進していくにあたって、各ステークホルダーと連携をしていくといった形になりますので、ご質問いただいたような各ステークホルダーを含めたプロジェクトチームを形成するというわけではないんですけれども、部局間で連携した上で、施策を推進していくときに各ステークホルダーと連携していくという進め方を検討しています。

交通戦略につきましては、環境局で策定しているものではなくて、大変恐縮ではあるんですけども、交通の利便性を高めるといったところも1つ、戦略の中には盛り込まれておりまして、例えばMaaS（マース）などを活用して、シームレスな交通機関を実施していくなど、脱炭素+利便性を上げて、より効率的に機能的に公共交通を構築していくということが戦略の中に掲げられておりますので、そうした面で交通部局と連携をしていきたいと考えております。

以上でございます。

【会長】

よろしいですか。

【委員】

ありがとうございました。

【会長】

委員がご指摘になりたかったのは、庁内でまず考えて、それからステークホルダーと連携していくというやり方ではなくて、考える時からステークホルダーの知恵を借りたらどうかと、そういうニュアンスの質問だったと思うんですね。ぜひ、事務局としてもしっかり受けとめてください。

他に、はいどうぞ。

【委員】

2つ質問させていただきます。

まず1つ目に循環型社会形成推進基本計画ですけれども、先ほどのご説明では産業廃棄物最終処分量が新規事業で始まったバイオマス発電からの残渣灰が増えたということで、令和3年でかなり上昇しています。

今後この事業を続けていくと灰は必ず出てきますので、2025年度の間目標というのは、かなり対策をとらないと厳しいと思うんですが、どういった対策をとられるのでしょうか。

今後、北九州市の経済のために産業を誘致すると、当然それに伴って残渣物が出てくる可能性はたくさんありますので、そのあたりの戦略についてもお伺いしたいというのが1つ目の質問になります。

2つ目に生物多様性戦略の報告についてですが、基本目標3で様々な取組がされていまして、市民のNPOやNGOなど団体のご協力というのは非常に重要だと私は思っています。その中で、人材の継続性がないことが非常に問題だなと考えています。

その点に対して、北九州市でこのような補助団体数が年々どのような傾向で増えているのか、団体への人材の持続性への支援はどのようなことをされているのが2つ目の質問になります。

以上です。

【会長】

はい。それでは循環計画について、どうぞ。

【事務局】

先ほどの最初の質問で、最終処分量の増加について、市として今後どのような対策をするかということについて、平成 30 年の 12 月にまず響灘地区に石炭バイオマス発電所が運転開始しまして、同じく翌年の 2 月にも響灘地区に火力発電所が運転開始しております。

いずれにしても、産業廃棄物は景気ですとか経済活動、企業の事業活動に大きく影響されるものでございます。そういった事業活動を抑制するものではないというのは十分承知しておりますが、本市としまして産業廃棄物について、事業者の処理責任の原則というのは踏まえた上で、一部では、大学等がリサイクルに向けた試験研究とかもやっておりますので、そういったリサイクルによる減量化ですとか、そもそもの廃棄物発生抑制、再使用、再生利用、熱回収という、できる限り循環的利用を徹底していただいた上で、なお利用できないものについては、適正処理をするということを排出事業者や処理事業者の皆様にはしっかりと取り組んでいただきたいと思いますと考えております。

以上です。

【会長】

はい、ありがとうございました。

それでは生物多様性について委員のご質問にお答えください。

【事務局】

まず 1 点目の基本目標 3 の支援件数は 3 年度 9 件でございました。もともと目標値は 10 件、1 団体上限 10 万円で、100 万円の予算で今まで運用してきたところでございます。

件数としては、ほぼ横ばいの状況でございます。年度当初に市政だより等で周知しまして、多くは NPO の方々、それから小学校の方で環境活動されているところに補助、支援してございます。

人材ですけれども、まずはこのような支援、活動を通じて、横と横との連携をとっていただくといったところで、共同でそのような体験活動をやるか、或いは自然環境保全ネットワークの会という団体に参加していただいて、その中で環境学習もやっておりますので、そういった人材の育成も並行して進めているところでございます。この支援については問い合わせもあっておりますので、継続してそういった視点を持って対応していきたいと思っております。

以上でございます。

【会長】

はい、よろしゅうございますか。他にご質問ご意見ございませんでしょうか。

【委員】

報告②についてお伺いいたします。

報告書に家庭系のリサイクル率が載っていて、基準年に比べると 2021 年はリサイクル率がちょっと落ちている。理由に古紙の回収の話が書いてあるんですが、本当かなという気がしています。

同じ報告②の 24 ページに、古紙の回収量自体は減っているんですが、3 ページに家庭ごみの量も 2019 年と 2021 年を比べると、2021 年が減っているんですね。捨てる量が減って、リサイクル率が落ちて

いるというのは一体何でだろうと思いました。

**【会長】**

はい。事務局いかがですか。

**【事務局】**

コロナの影響がいろいろありまして、家庭ごみが増えたりとか、家飲みとかあったりして、例えばペットボトルだとか、あとは粗大ごみが逆に増えたりとか、なかなか読みきれないところがございます。

ただ、なぜそう書かせていただいたかという、やはりコロナでなかなか接触できないということで、地域の1800ぐらい団体様があるんですけど、活動を一時止めたりという話を聞きましたので、そのような影響で、全体的にリアルな取組がかなり弱まってしまったというところで、そのように書かせていただいております。

ごみの量につきましては、コロナの関係で読みきれないので、その部分の因果関係というのは難しいんですけども、はっきり言えるのは行動制限の関係でそういった活動が難しかったというところがございます。

以上です。

**【委員】**

ありがとうございました。了解しました。

コロナの影響で若干不規則なことがあるということだと思しますので、リサイクル率についてはもうちょっと長期的に何が上がったり下がったりしているか、何が影響しているかというところをしっかりと見ていただいて、対策を考えていただければと思います。

**【会長】**

そうだと思いますね。特に今までの新聞回収は、このような統計の上では数字がなかなか把握できないでしょう。ただ、行政が情報を把握できない形のリサイクルがどんどん広がっていくと、こういうものの数値は下がってしまうんですが、実際にはちゃんとリサイクルされているということなんですよ。

本来は資源物だから、勝手にどこで集めても文句言えない面もあるんですが、本当は届出制にして、実態把握できるようにしないといけないということも繰り返して言っています。廃棄物であれば当然規制を設けているけれど、そうではないものはできないということで、今も決まっていなくていいんですよ。

少し検討してみて、条例でもいいし要綱でもいいし、何とか行政の方でどのぐらいのものがどのぐらいどこに集まっているか、情報把握できるものを作ってみるのも1つの方法だとは思いますが、一度検討してください。委員がおっしゃることはもっともだと思います。

他にございませんか。はいどうぞ。

**【委員】**

質問です。報告事項の②のA3の最初の資料、右下の廃棄物に伴うCO2排出量の削減というところですが、「コークスの代替としてバイオマスチップを使うことを検討」ということですね。

それから今後、プラスチックごみの一括回収によって、プラスチックの量が減って焼却量が減るんだと思うんですけども、熔融炉に入れるこの廃棄物も熱量源としてカウントしているんでしょうか。

これはトータルの熱量バランスが整っているという前提での答えだと思うんで、ちょっと危惧しながら



ら質問しています。よろしくお願ひします。

【会長】

はい。事務局何かお答えございますか。はいどうぞ。

【事務局】

ご指摘のとおり、廃棄物処理する上で、プラスチック、これはごみの熱量としてカウントしています。ただ、量的に言いますと、プラスチック量の全量が仮に焼却できなかつたとしても、ぎりぎりごみ処理する上では影響はないという試算はしております。その辺りは大丈夫です。

ただ、廃棄物発電の熱量が低下するという点では、発電量は若干減るということは致し方無いところ  
です。

【委員】

ありがとうございます。炉が多分熱量設計されていると思うのでちょっと気になります。

【会長】

はい。どうもありがとうございます。他にございませんでしょうか。

【委員】

報告①のグリーン成長の件で伺います。

参考資料データの部分の啓発広報という部分に関してですが、23 ページの資料で環境ミュージアムの来館者数がここ数年コロナで大きく落ち込んでいると思います。北九州市では様々な施設で企画展などをやって集客を頑張っておられます。環境ミュージアムの展示内容も最近更新されましたし、今後、環境はすごい関心が高まってきて、様々な技術開発も進んでくると思うんですね。

ですので、環境ミュージアムで通常展示＋企画展的な部分で、やっぱり夏休み期間中とかですね、子どもたちが来やすいような展開をして、入館者数を増やすような形にしてもらいたいなと思います。

報告②のリサイクル率については、なかなか基準年に比べて、コロナもあり、伸び悩んでいるということで、30%で頭打ちなのかなと思っています。

しかし、今後プラスチック資源一括回収ということで、これが始まれば、今の30%いかないぐらいで伸び悩んでいるリサイクル率が、どこまで向上する見通しで考えておられるかについて教えてください。  
以上です。

【会長】

はい。事務局はお答えありますか。

【事務局】

今の時点ではあくまでも計画で、30%・32%と書いていますので、現状でそれを変更する考えはございません。

【会長】

ということでございますね。

環境ミュージアムについて多分学校がコロナの影響で行かなくなって、入館者数がガタっと下がったんだと思います。間違いないですか。

**【事務局】**

そうですね。2年間コロナで閉館しておりましたし、入館者も減っております。

**【会長】**

その影響だと思います。

**【委員】**

報告①の環境グリーン成長推進のところで、トピックスの風力発電関連産業総合拠点化と人材育成について。これは要望というか質問なんですけど、人材育成をするということは、その関係企業で就職したりだとかとリンクすると思うんですけども、こういう脱炭素の取組が北九州の地域経済の発展とリンクしてこそグリーン成長戦略だと思います。今回は4名が採用内定と書いてあるんですけど、この事業全体通じて、例えばどれぐらいの人の雇用を目標にしているみたいなことはありますでしょうか。

あと KitaQ Zero Carbon プロジェクトはとても素敵な取組と思いますが、これについては3年間で6万人のアクションということで、非常に高い目標値を掲げられていると思います。6万人に向けての課題と、なぜ6万という数字なのかということをお教えください。

**【会長】**

はい。どうぞ。

**【事務局】**

最初に風力の就職の件についてお答えします。

今年度から人材育成ということで洋上風力キャンプを行いまして、いろいろなマッチングを行った結果、最終的に4名と書いていますけど、5名の就職が決まったところです。最終的には何名の目標かというところなんですけど、できるだけ増やしていきたいというのが私たちの思いです。

なので、10名だったら成功なのか、20名なら成功なのかというのは、今のところはまだ目標は定めていないということです。なるべく増やしたいということです。

**【事務局】**

KitaQ Zero Carbon の6万人につきまして、もともとは3.5%理論というものがありまして、人口の約3.5%が、そういった社会的な活動に貢献をすると、社会的なムーブメントになるといった理論があります。そうしたことも踏まえて、まずはその6万人のアクションを、高い目標ではあるんですけども、目指したいということで目標設定しております。

この6万人に向けての課題としまして、市のイベント・キャンペーンだけでは、到達できませんので、なるべく企業や学生の方々も含めて、様々なところと連携してキャンペーンをしていきたいと考えております。

以上です。

**【会長】**

はい。よろしゅうございますか。

【委員】

ぜひ雇用については、他都市もこの事業を通じてどれぐらいの雇用や経済波及効果があるかみたいなところも出されていると思いますので、これは要望としておきます。

それと今言われた理論を僕は初めて聞いたんですが、そのようなストーリーがすごく大事なんじゃないかなと思います。期待して応援したいと思います。

【会長】

どうぞよろしくお願いいいたします。

【事務局】

風力発電関連産業総合拠点化と人材育成について、目標をどう立てるかというのはまた庁内でしっかり議論したいと思いますが、5人とか10人とかそういうことではなくて、北九州市の成長に繋がるような人数でしっかり頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

【会長】

はい。それでは次の報告事項⑤をですね、この辺りの議論がありますので、先に報告を聞きましょう。

【事務局】

⑤「プラスチック資源一括回収事業及びペットボトルの水平リサイクルの推進について」説明

【会長】

はい。ありがとうございました。

それでは2つの魅力的な取組を始めたいということですが、ご質問、ご意見ございますか。先に質問をいくつかお受けして、最後にまとめて事務局にお答えいただこうと思います。

【委員】

製品プラスチックの回収はとても期待しています。大変だと思いますが、よろしくお願いたします。

質問ですが、プラスチックのごみ袋ありますよね。あれは小さいサイズとの大きいサイズがあって、中間がないので、いつも困って大きいごみ袋にちょっとだけごみを入れて出しています。今後、中サイズができるのかということと、料金もこれから先変更されるのでしょうか。そういう意見があるということでこれから期待しております。よろしくお願いたします。

【会長】

はい。他にご質問ございませんか。

【委員】

一括回収は素晴らしいと思っています。市内で出る発生量の全量を市内業者で処理できるのか教えてください。もしできなければ、北九州市はリサイクル産業も集積していますので、そういった技術のある会社を北九州市に誘致するのでしょうか。また、広域連携で他都市の分も処理するという形なのか、それについて教えてください。

**【会長】**

はい。他にございますか。

**【委員】**

一括回収について、回収することは非常にいいことだと思うんですが、一括回収すると、違う種類のプラスチックが入ってきて、資源化が少しネックになると思います。或いは、それを分けようと思ったから、回収後の分別をする時に新たな装置が必要になりますか。その辺りの観点や、一括にされた理由を教えてください。

**【会長】**

それでは以上のご質問にお答えください。

**【事務局】**

まず、袋のサイズであるとか料金といったことなんですけれども、今、容器包装プラスチックを緑の指定袋で回収していますので、まずはそれを使用させていただこうと思っております。この事業をやっている中で、様々な課題も出てくると思いますので、サイズの話であるとかそういったものにつきましては、今後検討することもあろうかと思っています。

それから処理能力の話ですけれども、今、容器包装リサイクルの関係は年間 7600 トンほど処理をしております。今回の製品プラの一括回収をやることで1万トンぐらいまでになろうかと思っておりますけれども、市内の事業者様とも話をしております、処理能力的には十分対応できると伺っております。

それからプラの素材がいろいろ混入してしまうということなんです、確かにそうなんです。ただ、例えばマヨネーズのケースなんかは単一素材ではなくて複合素材ということになっていますので、結局それ自体が1つの種類じゃございません。

ですから、今回一括回収をして、ある程度光学選別とかで素材ごとに分けられるんですけれども、正確にこの素材だけという形は技術的には難しいです。

ですから、リサイクルする時はフレークにしたりとか、そういった形である程度若干違う素材のものが入ってくると思いますので、それを踏まえて、例えば車止めにするとか、何にリサイクルするのかというのを選んでいくことになろうかと思っております。

ですから、新品の本当のバージンのプラを使わなくてもいいような、例えば今言った車止めとか、フォークリフトで使うときのパレットとか、そういったものにリサイクルしていくのかなと考えております。

以上です。

**【会長】**

よろしゅうございますか。他にご質問ご意見ございませんか。

**【委員】**

プラスチック資源回収についてなんですが、一般廃棄物のみなのか産業廃棄物もするのかがわからなかったの、お伺いしたいなと思ったのが1点。

広報の部分ですが、私の友人で北九州市に大学から来た子で、プラスチックの回収が前に住んでいた

地域ではなく、北九州市のプラスチック回収で何が回収できるのかを知らなかったということを知ったので、広報の部分をこれから頑張っていたきたいなと思います。

**【会長】**

はい。ありがとうございました。どうぞ事務局お答えください。

**【事務局】**

一括回収でやるのはご家庭から出てくるものなので一般廃棄物のみになります。産業廃棄物はあくまでも事業者の責任ということで、今回の事業では対象にしてごさいません。

それと広報につきましては、まだちょっと予算をいただけてないので、確定的なことは申し上げられませんが、新しい制度を入れるにあたりましては、事前にしっかりした広報というのは、市全域でやっていきたいと思っていますので、その点はしっかり事務局としても対応して参ります。

以上です。

**【会長】**

他にございせんか。

**【委員】**

プラ製品の再商品化ですが、これはブランド化して、北九州市での再生プラスチックを使った製品の魅力やデザインに力を入れてもらいたいと思っています。再生プラスチックは色が真っ黒になりがちで、そういった黒色も逆にブランド化していくなど、そのような部分で市内のメーカーなどにも働きかけをしてもらいたい。

以上です。

**【会長】**

はい。ご要望として承っておいてください。ありがとうございました。

他にございせんか。

それではこの件についてご報告を承ったということにさせていただきます。

本日審議すべき事項、答申については、私にご一任いただきましたので、修正の上で答申といたします。また、ご報告についても有意義なご意見をいただきました。

それでは本日、審議会は終了とさせていただきます。事務局から連絡事項がございましたらどうぞ。

**【事務局】**

会長ありがとうございました。

本日委員の皆様にはお忙しい中ご出席いただき、また、貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。皆様からの意見を踏まえまして、今後、市としてしっかり検討して対応して参りたいと思います。

事務局からは以上でございます。本日は長時間に渡りまして誠にありがとうございました。

以上で、第 64 回北九州市環境審議会を終了させていただきます。